



西尾いきものふれあいの里だより

3月号

2024.3.1 発行

さとやま

3月の里といきもの



今年の2月は、冷え込んだ日もありましたが、中旬頃から3・4月並みの暖かい日もありました。こんな気象が当たり前のこの頃です。春分頃には、冷え込む日は少なくなり、春のいきものたちが活動的になってきます。近年は下旬にはサクラが開花するようになりました。

日当たりのよいところでは、足元に小さな白い花が咲いているのを見かけます。



春の七草の1つであるハコベですが、実は図鑑には「ハコベ」とのみ記載されているものはありません。写真のものはコハコベだと思われませんが、ミドリハコベかもしれません。コハコベは茎が紫色で、雄しべが3～5本、ミドリハコベは茎が緑色で雄しべが7～10本とされていますが、そうでないものもあるようで、詳しく調べないとわかりません。ミドリハコベは在来種で、コハコベは、明治時代頃からの外来種だと言われており、交雑種もあるようです。どちらも雌しべが3本に分かれています。

ハコベの仲間はナデシコ科に分類される越年草で、花卉は10枚のように見えますが、実は5枚の花弁が深く切れ込んでいてそう見えます。毒性がないので、おひたしなどにして食べることができ、生薬として、利尿・浄血・催乳作用などがあるようです。



ウシハコベ



暖かくなると、もう少し大型のハコベの花が見られるようになります。これは**ウシハコベ**で、雌しべが5本に分かれていることで見分けられます。大きいので、「牛」の名がついたようです。

ハコベの名がついていませんが、とても小さなハコベの仲間も見つかります。**ノミノフスマ**という名ですが、蚤の布団になるくらい葉が小さいので名がついたと言われています。花をよく見ると、つくりは**ハコベ**のなかまとそっくりで、雌しべは3本に分かれています。



ノミノフスマ



オランダミミナグサ



里では、もう1種類、ハコベによく似た植物の花が見つかります。これは、**オランダミミナグサ**というナデシコ科の植物です。ハコベの仲間と違って、花弁の切れ込みが小さくて、5枚に見えます。全体に毛が生えていることでも見分けることができます。食べられなくはありませんが、美味しくないようです。ヨーロッパ原産の外来種で、世界中に分布しています。

ところで日本にはミミナグサという在来種があって、短い毛の生えた柔らかそうな葉が、ネズミの耳に例えられたことから名がついたそうです。古来から食べられていた普通に生えている植物だったようですが、数が減りています。里で見かけたことはありません。花茎がオランダミミナグサより少し長く、茎やがくが暗紫色なのだそうです。

3月はこんな生きものも見られます

よく晴れた日には、成虫で越冬する**ルリタテハ**などの蝶たちが、日向で体を温めるように少し破れたり、色褪せたりしている翅を広げてとまっている様子が見られます。

田んぼエリアでは、里ではここでしか見られない花たちが咲きます。**ミツバツチグリ**の花はヘビチゴに似ていますが、萼ができないこと、葉の形が違うことで見分けられます。かれんな**ヒメウス**は、あずま屋の近くの斜面だけにある、うつむいて咲いている花をのぞき込むと、白いがくの中に黄色い花弁が筒状に並んでいます。名前は小さな烏頭（うずートリカブトのこと）という意味です。葉が似ていることから名が付けましたが、トリカブトほどの毒性はありません。ただ、汁が肌に触れると、かぶれることがあります。



ルリタテハ



ミツバツチグリ



ヒメウス



ショウジョウバカマ



ヤマネコノメソウ



ヒサカキ

雄花

雌花

ショウジョウバカマの小径や、トンボの里などの流れのほとりには**ショウジョウバカマ**の赤い花が見られます。花を中国の伝説上の動物「猩猩」（しょうじょう）の頭に、葉を袴に見立てて名がつけました。その近くや、トンボの里へ向かう川沿いの湿った場所には、種子の付き方が猫の目に見える**ヤマネコノメソウ**が群生しています。

里全体の林では、漬物のようなにおいを放ちながら、**ヒサカキ**の花が咲いています。雌雄異株で、雌しべが退化した雄しべだけの雄花、雄しべが退化した雌しべだけの雌花のほかに、中間型のものも見られます。色も白からピンク色まで様々です。榊（サカキ）のない地方では、代わりに神棚に飾ることもあり、姫榊とか非榊から名がついたと言われています。

庭木にもよく使われる**アオキ**も雌雄異株で、まず雄株に雄しべだけの雄花が咲き、遅れて雌株に雌しべだけの雌花が咲きます。雌株には昨年の赤い果実が残っていることがよくあります。

長円寺と万灯山のロータリーでは、愛知県の木に選定されている**ハナノキ**が、サクラが咲く少し前頃に葉より先に開花します。

また、里全体で**ニオイタチツボスミレ**をはじめとした、様々な種類のスミレがその環境に適した場所で咲きだします。



アオキ

雄花

雌花



ハナノキ



ニオイタチツボスミレ

こんな春のいきものを探して、里を散策してみませんか。ただ、日差しは9月の彼岸頃と同じです。気温の高い日もありますので、紫外線対策や、熱中症対策は万全にしましょう。

2月の行事紹介



3日間かけて竹炭焼き体験を行いました。

1日目は、トンボの里の竹林の竹を間引き、運搬しやすい大きさに竹を切り、炭焼小屋まで運びました。次に炭焼窯に入れる長さに竹を切り、竹を割り、節をとり、窯の中にきれいに詰めました。

翌日の2日目は、窯に火を入れ、火を絶やさないうように窯の火を見張って、約6時間で焼きました。この作業の間には、切ってきた竹を加工し、出来上がる竹炭の飾り用の入れ物などを作りました。

3日目は、1週間後の窯出しです。新調した炭焼窯は、想像以上に窯の中の熱の通りが良かったためか、竹炭ができず灰になってしまった部分もありましたが、竹炭を参加者で分けて持ち帰れました。

3日間の作業は大変でしたが、初めての体験は楽しく、また竹炭作りの難しさを感じていました。

4月の行事予定



7日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
14日(日)	タケノコ掘りで竹林整備しようⅡ ※注1	30名		

内容 ~里の竹林整備・環境学習の一環として、トンボの里の竹林でタケノコ掘りを体験します。竹林整備の仕方、タケノコの生え方などを教えてもらい、実際にバチ鎌(くわ)を使って採り方を学びます。

「※注1」の講座は3月17日から受付しますが、両日への申込みはできません。

21日(日)	タンポポの仲間たちを探そう	20名	AM9:30~11:30	高須桂子
--------	---------------	-----	--------------	------

内容 ~あっ! タンポポ見つけた...それ本物ですか? 春の生き物を観察しながら、タンポポそっくりさんを探します。タンポポによく似た花たちを見分けながら、何種類みつけられるかな。

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候**により、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課